

プロジェクト課題No.1

生食用ぶどうの ブランド化による生産拡大

対象者：南三陸大粒ぶどう協議会（会員9人）

計画期間：令和6年度～令和7年度

チーム員：◎木村、村主、菊池、大野、降幡



1-1 課題の背景(対象の概要)

- ・南三陸町では生食用ぶどうの作付が拡大している。
- ・中山間地でも栽培しやすく、高収益であり、新植する生産者が増加している。

【対象】 南三陸大粒ぶどう協議会

- ・令和5年11月設立。R7.8現在 会員:14名 栽培面積:約80a
- ・統一の基準に基づく高品質な大粒系ぶどうの生産販売及びブランド化による生産拡大・認知度向上を目指している。
- ・環境負荷低減の取組(化学肥料・農薬の使用低減、町内資源を活用した施肥、土づくり等)の実施による差別化、付加価値向上を目指している。

1-2 課題の背景(ねらい)

- 栽培歴の浅い生産者が多く、会員間の技術平準化に向けた支援が必要。環境負荷低減の取組の導入に向けても、併せて支援が必要。
- 現在は地域直売所への出荷や庭先販売がほとんどだが、今後の生産量増加を見据え、南三陸町産ぶどうの評価向上等による販売力強化が必要。



栽培技術向上、付加価値創出による生食用ぶどう生産を支援し、
ぶどうの生産量・販売量の増加により、新たな産地形成を図る。

2-1 今年度の目標

- (1) 栽培指導による会員間の技術平準化および販売力強化が図られる
- (2) 環境負荷低減の取組や省力化技術の導入が行われる

■数値目標

協議会のブランド化したぶどうの出荷量

【R5】 0kg → 【R6】 240kg → 【R7】 300kg

実績: 867kg

2-2 今年度の活動事項

(1) 技術力向上及び環境負荷低減、省力化技術の導入支援

① 巡回指導・栽培研修会の開催

- ・巡回指導及び新たに栽培を始めた生産者の重点的な指導。
- ・栽培において重要な、花穂整形・摘粒・剪定作業の栽培技術研修会実施

② 環境負荷低減・省力化技術支援

- ・牡蠣殻、ホタテ殻使用による土づくり支援
- ・無煙炭化器、電動剪定鋏による環境負荷低減及び省力化技術導入支援

(2) 販売力強化・PR支援

① 販売会開催に向けた支援

- ・南三陸さんさん商店街での販売会開催に向けた支援

② 関係機関と連携したPR支援

3 これまでの活動と成果

(1) 技術力向上及び環境負荷低減、省力化技術の導入支援

①巡回指導・栽培研修会の開催

- ・ジベレリン処理、花穂整形、摘粒、副梢管理、病虫害防除等の高品質果実生産に重要な技術の習得・実施を支援。大きな問題が発生せず収穫期を迎えている。



- ・栽培研修会は5月、7月の2回開催。

5月26日 花穂整形技術研修会

7月 1日 摘粒技術研修会

会員の9割が参加し活発な意見交換が行われた。



3 これまでの活動と成果

(1) 技術力向上及び環境負荷低減、省力化技術の導入支援

・有色袋及び傘掛けによる品質向上技術導入

シャインマスカットの果皮黄化、かすり症の軽減のため、有色果実袋利用や傘かけ利用の効果と使用方法を指導し、想定した被害軽減に加え、今年度の高温乾燥による被害軽減につながった。



3 これまでの活動と成果

(1) 技術力向上及び環境負荷低減、省力化技術の導入支援

②環境負荷低減・省力化技術支援

・牡蠣殻配布による土づくり

南三陸町の特色を生かした差別化を図るとともに、町の資源活用を促進するため、協議会の栽培要領で牡蠣殻、ホタテ殻等の施用を定めており、今年度は協議会員の希望者に、牡蠣殻を配布した。希望しない協議会員は独自にホタテ殻を確保して散布が行われ、環境に配慮した土づくりが行われた。



3 これまでの活動と成果

(1) 技術力向上及び環境負荷低減、省力化技術の導入支援



農業を進めたい」と感謝する。

カキ殻に含まれるカルシウムは果樹の成長に必要な栄養素の一つで、土壌改良

「地域内で循環型農業を」

に効果があるという。提供した後藤さんは「環境に良い取り組みに共感している。海の資源が農作物の栄養になればいい」と期待を寄せる。

しおかぜ葡萄は昨季デビューし、生産者がシャインマスカットなど20種類以上、計867トンを出荷した。町内の菓子店がブドウを使ったスイーツを開発し、裾野を広げている。

今季は8月末から出荷予定で昨季を上回る収穫を見込む。協議会会長の阿部博之さん(67)は「高い品質でおいしいブドウを出荷し、知名度アップを目指したい」と話す。

しおかぜ葡萄にカキ殻栄養

南三陸町で生産された大粒ブドウ「しおかぜ葡萄」のブランドを展開する農家が、カキ殻を活用した土づくりに挑んでいる。環境に配慮した栽培手法をアピールし、町産ブドウの認知度向上を目指す。

南三陸 漁師が生産者に無償提供

生産者らでつくる南三陸 受け取った。今後、生産者大粒ぶどう協議会の大沼ほか13人がカキ殻を砕いて粉状のかさん(26)ら4人は3日に、農地にまく。

日、同町戸倉の漁師後藤伸弥さん(40)が保管していたカキ殻約100トンを無償で

大沼さんは「たくさん頂けてありがたい。土づくりには町内の生ごみを再利用

カキ殻を詰める大沼さん(右)と後藤さん(左)南三陸町戸倉の資料置き場

3 これまでの活動と成果

10

(2) 販売力強化・PR支援

- ・販売会に向けて出荷基準について見直しを行い、粒だし販売に対応出来る基準作りを支援。
- ・果実品質等の出荷基準や販売価格を統一したものとするため、会員の目合わせを実施することとし、開催を支援。
- ・南三陸スイーツ協会と連携することで、
しおかげ葡萄を活用したスイーツが商品化
され、販路拡大
につながった。

【出荷基準】

- ①房重量が赤・黒系品種で概ね300g以上、黄緑系品種で概ね400g以上で房型が良好なもの
- ②1粒重量が赤・黒系品種で概ね12g以上、黄緑系品種で概ね15g以上で粒型が良好なもの。
- ③果粒が揃っており、目立った小粒のないもの
- ④病虫害や果皮の汚れ等が目立たないもの



4 今後の対応

(1) 技術力向上及び環境負荷低減、省力化技術の導入支援

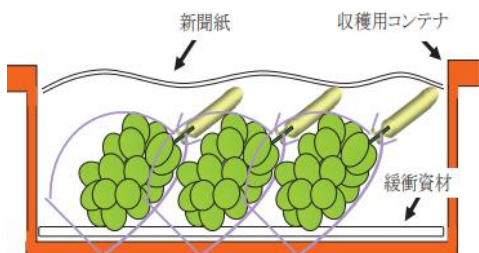
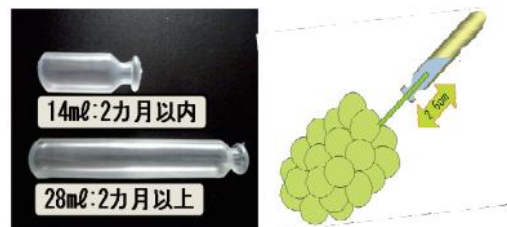
- ・収穫後の技術指導(せん定、施肥、土づくり等)
- ・電動剪定鋏による、剪定作業時間の削減、負担感の軽減。
- ・無煙炭化器による、剪定枝をバイオ炭として温室効果ガス削減、土質向上に向けた施用。また、11月に既に技術導入済みの先進地視察実施。
- ・環境負荷低減の取組の効果、実施方法等について、さらなる検証を実施
- ・今作の振り返り、課題の検討と改善に向けた指導



4 今後の対応

(2) 販売力強化・PR支援

- ・9月21日に行われる「さんさん商店街」での販売会や10月の気仙沼合同庁舎販売会を通じた、「しおかぜ葡萄」のPR、販売促進
- ・収穫後の穂軸に装着する給水容器(フレッシュホルダー)を用いた長期保存の検証
- ・販売実績の取りまとめ、課題の洗い出し、次年度の販売計画の検討



H30.3 農研機構果樹茶業研究部門発行
新技術を導入した「シャインマスカット」栽培マニュアルより